

競技注意事項

1. 規則について

本大会は2019年度日本陸上競技連盟規則並びに本大会競技注意事項により実施する。

2. 練習について

(1)ウォーミングアップ及び練習は、補助競技場・雨天練習場・投てき競技場を使用すること。

(2)練習場の使用については、役員の指示の従い、安全に留意すること。

(3)本競技場内における競技前の練習は10:00までとし、すべて競技役員の指示に従って行うこと。ただし2日目に行われる開会式は9:00より行われるので練習は8:45までとし、開会式の時間帯は練習を禁止とする。3日目は8:20までとする。

(4)前日練習について

① 前日練習については本競技場を16時から19時の間のみ開放する。その他の時間帯については各大学責任をもって行うこと。本連盟は責任を負わない。

② 補助競技場は個人使用をすることができる。しかし、他の団体等も使用する可能性があるので周りに気を付けて練習すること。

(5)補助競技場について

① 補助競技場における練習については左回りとし、トラック内での逆走は禁止する。

② ハードルの使用については、110mHは8,9レーン、100mHは7レーン、男子400mHは6レーン、女子400mHは5レーンを使用すること。その他のレーンでハードルを使用することは禁止する。

③ スタートブロックを使用する際は周りに注意を払い、安全に注意すること。

④ 補助競技場全面でのテントの設置は禁止する。

(6)投てきの練習について

① 練習については、役員の指示に従い、行うこと。

② 公式練習はハンマー投以外の種目は、本競技場内で審判の指示により行う。ハンマー投は投てき競技場で審判の指示に従い行うこと。

③ やり投は招集の後、本競技場内で練習ならびに公式練習を行う。

④ やり投以外の投擲種目練習は投擲競技場で行うこと。ただし、3日目は9:00まで練習可能とする。

(7)雨天練習場について

① 100mスタート方向から一方通行とし、戻る際は左回りで通行すること。

② スタートブロックは本連盟が設置したもののみ使用を許可する。またハードル等の用器具の使用は厳禁とする。

③ 各校の控室としての使用は禁止する。

3. 競技場使用の注意

- (1)ゴミ袋を学校受付の際に配布するので、清掃を徹底し、ゴミは各大学が責任をもって持ち帰ること。
- (2)更衣の際はバックスタンドの下、更衣室1・2を使用すること。また更衣室3・4は混成の選手のみ使用を許可する。メインスタンド下の更衣室は開放しない。更衣室での場所取りは禁止する。また、荷物は各大学で責任をもって管理すること。
- (3)バックスタンドは棒高跳の応援時のみ開放し、全体応援は両サイドスタンドのみとする。ただし、両サイドスタンド付近で競技が行われる場合は、競技の妨げになる恐れがあるため控えること。
- (4)メインスタンドでの部旗・横断幕の掲出は一般観衆の妨げとなるため禁止する。バックスタンドでの掲出は認めるが、掲出時間は3日間を通して開門後とする。競技終了次第毎日部旗・横断幕は取り外すこと。掲出の際は必ず短い紐のみを使用し、ガムテープ等の使用は禁止する。
- (5)大会前日、また当日中の開門前の場所取りは厳禁とする。閉門時にはシートを含め、荷物はすべて持ち帰ること。テープもすべてはがすこと。開門前、閉門後に許可なく競技場内、スタンド内に侵入している大学を発見した場合、厳重に注意し、その大学の以降の出場を認めない場合がある。
- (6)シートの固定等で競技場内においてテープを使用する場合は、養生テープのみに限定し、その他のテープ類(ガムテープ等)の使用は堅く禁止する。
- (7)駐車は係員の指示に従い駐車すること。一般車はメイン駐車場、競技役員は調整池、バスはバス専用駐車場に駐車すること。ただし、バスは事前に駐車申請されたバスに限る。駐車しない車は混雑を避けるため、駐車場への侵入を禁止する。
また、パークドーム横の駐車場は使用禁止とする。
- (8)競技場は全天候舗装型であるため、使用するピンの長さは9mm以下、走高跳・やり投については12mm以下とする。
- (9)当該競技の出場者以外はトラック・フィールド内に立ち入ってはならない。注意に従わない場合、同校の競技の出場を認めない場合がある。
- (10)競技場内において競技者は助力と見なされるビデオ、カセットレコーダー、ラジオ、CD・MDプレーヤー、トランシーバーや携帯電話、スマートフォン、もしくはそれに類似するものを使用する、または所持することも禁止する。勧告を受け入れられない場合は失格となる。なお、その他競技者に対する助力については競技規則第144条を適用する。
- (11)医務室は競技場内に設ける。なお、大会期間中(補助競技場等含む大会会場)において起こった怪我に対しては主催者側が応急手当を行うが、それ以降の治療に対しては一切責任を負わない。ただし、出場者は原則として、スポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。必ず保険証のコピーを持参すること。
- (12)メインスタンド下の競技場内通路は関係者以外の進入を禁止する。
- (13)スパイクで競技場内通路を通行することは厳禁とする。
- (14)貴重品の管理は各大学および各個人で責任を持って行うこと。盗難・紛失について主催者は一切責任を負わない。拾得物があった場合については、インフォメーションセンターにて一時保管する。
- (15)開閉門時間は以下の通りである。ただし、予告なく変更する場合がある。また、以下の記載
開門時間より早く競技場内には立ち入らないこと。

期 日	開門時間	閉門時間
5月17日(金)	8:00	18:00
5月18日(土)	8:00	18:15
5月19日(日)	7:30	15:30

4. 招集について

- (1)招集所は競技場第4ゲート付近に設置する。
- (2)招集の方法について
 - ① 競技者は出場種目の招集開始時刻になり次第、招集所でスパイク、ナンバー、商標の確認を受けること。
 - ② スタート地点到着後に、各競技現地で最終コールを行う。またスタート地点までは全員で移動する。
- (3)代理人による招集は認めない。ただし、他の種目と招集時間および競技時間が重複する場合は、招集所に重複出場届を提出すること。
- (4)混成種目の招集は2日間とも最初の1種目のみ招集所で行う。以降の種目については現地にて招集を受けること。混成競技者控室はバックスタンド下の更衣室3・4に設ける。
- (5)リレーのオーダーについては、メンバーおよびオーダーの変更の有無に関わらず、ラウンド毎にオーダー用紙(インフォメーション・センターに用意)をインフォメーションセンターと招集所に提出すること。提出締切は招集完了時刻の1時間前とし、遅れた場合出場を認めない。怪我等によるこれ以降の変更は、主催者の任命した医務員の判断がない限り認められない。また、招集開始時刻になり次第、全員で招集を受けること。
- (6)招集完了時刻に遅れた競技者は出場を認めないので十分に注意すること。
- (7)招集時間は競技日程を参照すること。

	トラック種目	棒高跳	その他フィールド種目
招集開始時刻	競技開始40分前	競技開始90分前	競技開始60分前
招集完了時刻	競技開始30分前	競技開始80分前	競技開始50分前

5. 欠場について

競技参加者の欠場については、大会の運営の円滑を期するため極力避けること。やむを得ず欠場となる場合は以下の要領で申し出ること。

- (1)大会3日前(5月14日)までに欠場が判明している場合は、本連盟ホームページより不出場届をダウンロードし、必要事項を記入の上、5月14日(火)18時までに本連盟事務所に提出すること。(郵送またはFAX可)
- (2)上記期日以降にやむを得ず欠場となる場合には、不出場届(インフォメーション・センターに用意)に必要事項を記入の上、招集所及びインフォメーションセンターに提出し、承認を得ること。なお、この手続きを行えば、その競技者は以降の競技に出場できる。
- (3)欠場に際し、申し出の無い場合は、以後の大会の出場を認めないなどの厳しい処分を課す場合がある。

6. ナンバーカードについて

- (1)ナンバーカードは2019年度九州学連指定の登録ナンバーカードを着用すること。
- (2)ナンバーカードはユニフォームの胸と背に確実につけること。ただし、跳躍競技に出場する選手は胸・背のいずれかにつければよい。ナンバーカードの折曲げは禁止する。
- (3)トラック競技は写真判定機を使用するため、トラック競技者は主催者の用意する腰ナンバーカードを右腰やや後方に、数字が見えるようにつけること。**ただし、男女10000m、男女10000mWについては両腰につけること。**腰ナンバーカードはフィニッシュ後、ただちに係員に返却すること。※第143条7・8・9項を参照のこと。

7. 競技の抽選・番組編成について

- (1)トラック競技の準決勝以降の組み合わせは、主催者が公平に抽選し、決まりたい掲示板に掲載する。
- (2)トラック種目における次のラウンドへのプラス選出の際に、同記録が複数出た場合、写真判定により1000分の1秒まで拡大し、「着差あり」まで判定する。それでも判定できない場合には、本人または代理人によって公平に抽選を行い、決定する。ただし、1500m、3000mSCの場合は該当者全員が次のラウンドに進出できる。※競技規則第167条を参照のこと。
- (3)写真判定機故障の場合、その種目の当該ラウンドを全組、手動計時に変更する場合がある。

8. トラック種目について

- (1)不正スタートに関しては、競技規則「第162条7」の適用により失格とする。
- (2)スタートの合図は ”On Your Marks”、”Set” で行う。
- (3)短距離種目では競技者の安全のため、フィニッシュ後も自分のレーンを走ること。
- (4)リレー種目について
 - ①各大学同一のユニフォームを着用すること。この時、デザインが同じものを着用すれば、スパッツ、ランニングパンツの区別は設けない。
 - ②全ラウンドにおいて、最初に編成して申し込んだメンバーの中から最低2名は出場しなければならない。それ以外の2名はプログラムに記載のある選手であれば、予選ラウンドから出場できる。
 - ③次ラウンドにおける交代は2名以内でなければならない。なお、出場チーム数の都合上、単一ラウンド(決勝のみ)となった場合、次のラウンドに進んだものとする。※第170条10項参照のこと。
 - ④4×100mリレーに使用するマークテープは本連盟が用意したものを使用すること。マークテープは招集所にて配布する。※第170条4項参照のこと。
- (5)男子5000m、10000mについてはタイムレース決勝とする。
- (6)男女10000m、男女10000mWについては、給水を設置する。また、男女5000mについては、気象条件により設置する場合がある。
- (7)男女5000m、男女10000m、男女10000mWについては下記の設定時間でゴールに達しない選手は競技者がどの段階にあっても速やかに競技を中止させる。ただし、下記の設定時間を過ぎても上位8名がフィニッシュするまでは競技を続行する。

男子		女子	
5000m	18'00"	5000m	21'00"
10000m	37'00"	10000m	42'00"
10000mW	55'00"	10000mW	65'00"

(8) 男女5000m、男女10000mについては当日の状況を見て、インレーン、アウトレーンへの振り分けを行う。役員の指示に従うこと。

(9) 男女5000m、男女10000mについてはフィニッシュの際に、4レーンより外側のレーンでゴールすること。

(10) 男女3000mSCについてはランニングシューズでの出場は認めない。

(11) 4×400mRの際は200mスタート地点での集団応援を禁止する。

9. フィールド種目について

(1) 跳躍種目のバーの上げ方は原則として以下の通りとする。

種目・種別		練習	バーの上げ方
走高跳	男子	1m70、2m00	1m75-1m80(5cm刻み)-2m10-(3cm刻み)
	女子	1m30、1m50	1m35-(5cm刻み)-1m65-(4cm刻み)-1m69-(3cm刻み)
	十種	1m45、1m85	1m50(5cm刻み)-1m80-1m85-1m90-(3cm刻み)
	七種	1m15、1m50	1m20-(5cm刻み)
棒高跳	男子	3m80、4m40	3m80-3m90-(10cm刻み)
	女子	2m80、3m40	2m80-2m90-(10cm刻み)
	十種	2m30、4m00	2m30-(30cm刻み)-3m40-(20cm刻み)-3m80-(10cm刻み)

※ 同成績の場合は競技規則第181条8項を適用する。

(2) 走幅跳は、男子・女子ともに2ピットで競技を行う。

(3) 男子三段跳は2ピット(ともに13m)、女子三段跳は1ピット(10m)で行う。

(4) 男子走幅跳・三段跳については、円滑な運営のため、以下の記録に達していない場合は計測を行わない。ただし、ベスト8については順位を決定させるためにすべて計測を行う。

	走幅跳	三段跳
男子	6m40	13m50

(5) 2019年4月1日より跳躍に関する規定が変わり、以下の通りとなったので十分注意すること。

日本陸連「第180条総則－フィールド競技 試技時間」

～(前略)～つぎの試技時間は、通常の場合超えてはならない。試技時間を越えたら第180条18を除き、無効試技として記録する。

単独種目

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	<u>1分</u>	1分	<u>1分</u>
2～3人以上	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—

連続試技※	2分	3分	2分
-------	----	----	----

※4人以上または各競技者の最初の試技

※走高跳・棒高跳では、残っている競技者が2人以上、同一の高さのみ適用する。

混成競技

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	<u>1分</u>	1分	<u>1分</u>
2～3人以上	1分30秒	2分	1分
1人または連続試技※	2分	3分	2分

※4人以上または各競技者の最初の試技

※残っている競技者に関係なく適用し、走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

10. 混成競技について

- (1)招集は、各日最初の種目に限り招集所にて行う。それ以降の招集は現地にて行うので、次の競技までは混成競技者控室にて待機し、競技役員の指示に従って行動すること。
- (2)混成競技者控室として本競技場バックスタンド下の更衣室3及び更衣室4を使用する。該当種目の競技者及び競技役員以外の混成競技者控室への立ち入りは一切禁止とする。
- (3)跳躍種目は1ピットで行う。

11. 対校得点・表彰について

- (1)各種目の得点は、1位8点、2位7点、3位6点、…、8位1点の8点制とする。
- (2)総合得点が同点の場合、優勝種目の多い大学を上位とする。優勝種目が同数の場合は2位種目、3位種目、…、8位種目を各々比較し、より多い大学を上位とする。
- (3)各種目3位までに入賞した選手は競技終了後直ちに表彰を行うので、本部横の入賞者控室に集合し、表彰係の指示に従うこと。入賞者が集合できない場合は、代理人を出すこと。また、表彰時の服装は、上半身はユニフォーム、下半身は各大学のジャージまたはウィンドブレイカーとする。
- (4)閉会式において、成績の優れた男女1名を最優秀選手として表彰し、最優秀選手賞とトロフィーを授与する。
- (5)競技者が8名に満たない種目についても8点制とする。

12. 用器具について

用器具はすべて競技場備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳用のポール、やりについては個人のものを使用を認める。その場合、他の競技者にも使用させなければならない。ポールの検査については競技実施エリアで審査員が随時行う。持ち込んだやりについては競技開始1時間半前第2ゲート付近にスタート地点付近の用器具庫にて検定を行う。使用の際の破損などによる事故発生の場合、使用した当該競技者の負担において賠償の責任を負うものとする。この場合、主催者はその責任を負わない。

13. 抗議について

- (1)抗議は競技規則第146条に基づき、アナウンスで正式に結果が発表されてから30分以内に、次

のラウンドが行われる種目ではその結果が発表されてから15分以内に競技者自身または代理人が総務に申し出る。

- (2) 審判長の裁定不服の場合には、その競技者に代わる責任者より上訴申立書と預託金(¥10,000)を添えて、正式な手続きをとる。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合、没収される。

14. 商標について

2019年度陸上競技審判ハンドブック「競技会における広告・商標の規定」に従い、招集所にてチェックを行う。2015年度よりユニフォームに関する規定が変更になったので注意すること。

15. 各書類提出先について

書類名	配布場所	提出先・依頼先
不出場届	インフォメーションセンター	招集所及びインフォメーションセンター
重複出場届	招集所	招集所
リレーオーダー用紙	インフォメーションセンター	招集所及びインフォメーションセンター
記録証明書	インフォメーションセンター	インフォメーションセンター
上訴申立書	インフォメーションセンター	学連本部(要預託金)

16. その他

- (1) オープン参加選手は予選ラウンドのみ出場とし、決勝のみの種目に参加した場合でも、順位は記録しない(フィールド種目についても同様)。

(2) 記録証明書を希望する競技者は、300円を添えてインフォメーションセンターまで申し込むこと。

- (3) 競技場内での写真、ビデオの撮影については選手のプライバシー及び肖像権を保護するため大会関係者及び主催者に許可された者以外の撮影は禁止する。盗撮防止のため、大会役員が声をかけることがあるが、その場合は速やかに許可証を提示すること。また、許可なく撮影している者を発見し次第、厳重に処分する。

- (4) 競技結果等は記録処理終了後に随時、本プログラムP.31に掲載する大会速報サイトにて発表を行う。

(5)主催者は、個人情報の保護に関する法律および関連法令等を厳守し、個人情報を取り扱う。なお、取得した個人情報は、大会の参加審査、プログラムの編成及び作成、記録発表、公式ホームページその他競技運営及び陸上競技に必要な連絡等に利用する。

(6)ポールおよびやりの返送について

返送を希望する場合は、インフォメーションセンターにて大会2日目終了までに輸送の手続きを行うこと。

(7)加盟校は学生審判補助員を派遣しなければならない。

※以上の内容以外でも、特別に役員から指示があった場合必ず従わなければならない。